

東日本事業、体制拡充

大豊産業 日本治具をグループ化

【高松】大豊産業（高松市、乾和行社長、087・811・4567）は、東日本方面での事業を拡充する。このためグループ会社のヤザック（相模原市）を吸収合併して神奈川県事業所に、日本治具（群馬県太田市）の株式を取得してグループ会社化した。出資額は非公表。これに伴い日本治具の社屋内に東日本支社を設置し、グループ内事業の合理化を進める。北関東を拠点として、北信越から東北方面を包括的にカバーする。

ヤザックを吸収合併

ヤザックと日本治具にて機や検査機などの設備は、ともに自動組み立計画開発を行っている。



顧客も重複していることから、工程を融合させグループ間の相乗効果を見込む。

ヤザックには電気制御などの技術がなく、日本治具のグループ化で外注していたものを

内製化できるなど、経営体制の効率化を目指す。東京支店を国内の営業部門と今後予定している。グループ会社化した日本治具（大豊産業提供）

る海外部門の拠点とする。東日本支社は技術部門の拠点とする。

このほか、養鶏所で死んだ鶏を自動で選別して処理できるロボット「ロボッコ」などの開発にも力を入れて

おり、同じく北関東を拠点に農業や畜産事業向けの展開も予定する。

所は14カ所目になる。M&A（合併・買収）にも積極的で、グループ会社は4社目となった。東日本方面は東京支店で個別対応したが、規模拡大のため強化に至った。

大豊産業は省力機器や再生エネルギー、ロボット事業を手がける技術系の商社で、事業

化に至った。